

文芸評論家 大村彦次郎氏を迎え 第48回文化講演会

毎年、秋の恒例となった文化講演会(主催:角館図書館後援会)が10月18日、角館榊細工伝承館を会場に開催されました。

この講演会は、芥川賞作家で仙北市新潮社記念文学館の名誉館長の高井有一氏の紹介で、毎年著名な作家を招いて開催しているもので、48回目となる今年は、高井有一氏と長く親交があり、早稲田大学の先輩・後輩、作家と編集者の関係である、文芸評論家の大村彦次郎氏を講師に迎え、「出版社と編集者」と題した講演が行われました。

大村氏は、講談社「小説現代」「群像」編集長を経て、文芸出版部長、文芸局長、取締役を務め、また、編集者として井上ひさしなど多くの才能を発掘・育成した方です。

講演は、「佐藤義亮生誕130年」記念の年にちなみ、出版社を舞台に自らの編集時代に見聞した逸話やエピソード、体験の数々を淡々とした語り口の中にユーモアも交えお話しくださしました。郷土の生んだ偉人、佐藤義亮の興した「新潮社」をはじめ、今も名だたる出版社のいくつかを挙げ、その創業者や中心をなした人たち(新潮社の佐藤義亮、講談社の野間清治、平凡社の下中弥三郎、岩波書店の岩波茂雄、文芸春秋の菊池寛など)の人となりについて触れられ、彼らは皆、地方出身者という共通点を持ち、今日ある出版界・出版社の隆盛は、彼らの志の高さ、強さ故であろうと述べられました。また、出版社の優れた創業者には、必ず優れた片腕となる人物が居り、彼らが日本の出版ジャーナリズムに貢献し、下支えとなり、日本の文化の一面を築いていったと結ばれました。



文芸評論家 大村彦次郎氏

ふるさと納税寄付金が100万円を超えました

仙北市のふるさと納税寄付金は、今年5月末から受付を開始し、市ホームページ・広報の他、ふるさと会や角館のお祭り、マラソン大会等でPRしてきましたが、その寄付金が11月5日に100万円を超えました。

使い道の指定別金額は、高齢者が安心して暮らすための事業へ51万円、未来を担う子どもたちを育む事業へ10万円、ふるさとの自然と歴史・文化を守る事業へ11万円、観光を軸とした交流のまちづくり事業へ21万5千円、その他として7万円、その他のうち2万円が秋田内陸線支援へとなっています。

寄付していただいた方々は、県内外を問わず、また仙北市出身の方もいれば、そうでない方もいます。

ただ、皆様に共通しているのは、仙北市への温かい想いです。

遠く離れていても、長く帰っていないくても、一度訪れただけでも、やはりふるさとはふるさとであるのです。その想いに、この地に住む私たちは、身近にある自然や歴史、文化を大切にすることで応えていかなければならないと感じます。

皆様からの温かい想いに感謝し、いただいた寄付金は有効に活用させていただきます。

これからも皆様の応援をよろしくお願いいたします

※寄付金の申し込みについては

寄付申込書に、寄付金の使い道の指定と必要事項を記入してお申し込みください。

寄付申込書は、ホームページからダウンロードすることもできます。

その他、市役所窓口で直接申し込まれるか、電話、FAX、電子メール、郵便等でお名前、ご住所をお知らせくだされば郵送いたします。



問合せ先 〒014-1298

秋田県仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30番地

総務部 企画政策課 「ふるさと納税」担当

TEL 0187(43)1112

FAX 0187(43)1300

